

万徳寺寺報

万徳寺
松山市三番町
7-1-1
☎933-3423

二〇二〇年の年末を迎えて

有り難いこと

本当は今回の寺報に新型コロナウイルス感染症に関してのことはあまり書きたくないなあと思っていたのですが、年末になり、この十か月余を通して思ったことは、万徳寺のご門徒さんへの感謝の念です。

いろいろ大変な中、皆さんちゃんとご法事等をして下さっています。苦渋の選択で愛媛から離れた所に住むご親戚に、ご遠慮頂いたり、大丈夫な時を待って苦勞して来て下さったり、悩みながら一人だけでもと、お参り頂いたり、本当にい

ろいろ考えながら法事等お勤め頂いています。

お盆参りのお勤めも無事にさせて頂きました。お寺のご法座もほとんど休座させて頂いて、やっと十月、十一月の常例法座は人数を少なく、ご法話頂く時間も短くして、無事に終えることができました。

十二月の報恩講もいろいろ悩みながらお勤めさせて頂きたかったのですが、十一月に入って状況が悪くなったので、やむなく今年は中止とさせて頂きました。

さみしいことですが、きっと、また、皆さんに来て頂いて、おもちつきや、おみがき、お掃除等お手伝い頂き、報恩講を無事にお勤め出来るようになるかと願っております。

お寺も当分の間は、いろいろ工夫しながらの法事等のお勤めになるかと思えます。これからもお身体を大切に、またお寺へも足を運んで下さい。
(坊守)

元気なリン、ランと副住職



コスモスの花 詞 賀来琢磨

麗しく
乱れ咲く花よコスモス
朝、希望の露うけて
夕、安けき法を聴く
み寺の庭の
花よ コスモス
やさしき花よ
明るき花よ
花よコスモス



境内地納骨塔の写真

納骨塔への納骨

気の中で、ほっとさせてもらったひとときです。きっと、来年もまた、愛らしい花を咲かせてくれることでしょう。

お問合せが多いので、納骨塔へのご納骨についてご説明します。

納骨塔 (万徳寺境内)

使用懇志 (ご遺骨一体)

① 永代経懇志 三十万円

② 納骨懇志 三万円

③ 刻字代 (業者へ実費) 三万七千円八百円

木屋町納骨塔

宗派を問わず納骨できます。

ご懇志は

① 永代経懇志 三十万円以上

② 納骨懇志 三万円

③ 刻字代 (業者へ実費) 三万七千八百円

墓地 (万徳寺境内)

使用冥加金は、境内地は寺院への寄付を含めて、一区画九〇cm×九〇cmで百円となっております。

木屋町墓地

木屋町墓地使用希望の方があればイフイ石材(電話0120-801668 担当 野本さん)にご連絡下さい。

使用懇志は、ご門徒さんは一区画四十五万円、門徒さん以外は五十万円です。



コロナの時代

コロナウイルスの感染拡大のため、お寺においても様々な法要、行事が中止やむなきに至りました。

ようやく十月、十一月にご法座が参加人数を制限した上で開催され、十二月の報恩講も開催する予定で、

おみがき、お餅付の依頼もしておりましたが、再度の感染拡大により残念ながら取り止めとなりました。

こういう状況でなにか新聞で取り上げるものは、と

考えておりましたが、NHK『この時代の時代』という題で

永田和宏氏と釈徹宗氏の対談がありましたので、少し

ご紹介したいと思います。

この対談本は本屋さんにありますので、是非一度お読み下さることをお勧めします。難しいことは飛ばしても、また、納得できないことはできないままに読むことができます。

対談者

永田和宏、細胞生物学者、

歌人、京都大学理学部物理学科卒、京都大学再生科学研究所教授を経て、JT生命誌研究館館長

釈 徹宗、浄土真宗本願寺派如来寺住職、相愛大学副学長、比較宗教学、宗教思想が専門。

万徳寺でもご講演頂きました。NHK洪護寺（しぶごじ）に出演中。

世界中の誰もが「当事者」（対談の最初の部分より）

釈 永田さんは、細胞生物学を専門とする科学者としての顔を持つとともに、歌人としても活躍されていますが、今回の新型コロナウイルスの感染拡大について、どのように感じておられるでしょうか？

永田 一〇〇年に一度の出来事と言えると思います。およそ一〇〇年前のスペイン風邪以来の感染爆発（パндеミック）です。世界中の誰が雇ってもおかしくありません。

釈 この問題に関して、部外者はいない？

永田 そうですね

釈 全員が「当事者」なんですですね。その点は地震や津波などの局所的な災害と違うところですね。

永田 だからこそ不安も大きいんですね。今回の出来事では、このウイルス感染における科学の知識を伝えていき、知ってもらったことが大事だという気がします。

釈 情報に振り回されたり、煽られたり、 unnecessary 攻撃性が高まったりという状況が起きています。

永田 例えば、みなさんはウイルスが向こうから攻撃してくると思っていまいませんか？でも、ウイルスは厳密に言えば生命ではありません。人間の細胞の中に入っ

てはじめて、我々の中で増殖をして、感染力を持つて外に出て行くというのがウイルスなんです。歌に詠んだ人がいます。

「ウイルスが広がっているのではない
人がウイルスを拡げている。」

コロナウイルスはコロナ

（王冠）と呼ばれる棘（とげ、スパイク）を持つていることはご存知ですね。このスパイクが人の細胞の表面にあるタンパク質に偶然結合することで、感染が成立するのです。ウイルスが悪意を持って攻撃しているわけではありません。

釈 新型コロナウイルスに関する歌の投稿は多いのでしょうか？

永田 多いですね、感染が拡大して以降、全投稿歌の六割から七割くらいがコロナに関する歌です。自分の生活を見つめながら歌を詠おうとすればコロナ禍の影響を受けていない人間はまずいないので、状況をしっかり見据えてどう対応しているかを歌に残すことがすごく大事だと思いますね。

その後、短歌を紹介しながら、また、項目をしぼりながら、科学、詩歌、仏教の視点で生き方を見つめ直して対談が続きます。

例えば、
「疑えばすべて罹患者
バスの中マスクがマスクを

監視している」

監視する側とされる側

スペイン風邪の時には「マスクを着ければ感染を防げるだろう」という認識だったそうです。今回の新型コロナウイルスの感染では、感染を防ぐのではなくて、人に移すのを防ぐんだと、日本国民みんなが納得した。



でも、世界から出ている論文を見てみると、入ってくるウイルスも防いでいることが明らかにになってきました。とありました。

マスクひとつでも深く難しい。

ウイルスはどこにでもいる

ウイルスは人間だけでなく動物や植物、バクテリアや、あらゆるものに寄生して自分を増やしていく。その寄生主を殺してしまうと自分が生きていけなくなるので、うまく共存できるウイルスだけが残っていく。

ウイルスは自然界の中で共存を保ってきたのに、人間が不用意に手をつけてしまった（森林を開発したり等）と言えるのだそうです。

私たちはウイルスでできている

ウイルスの遺伝子が人間の中にはいつてきて、子々孫々と受け継ぎ全遺伝子の一割近くがウイルス由来なのだそうです。女性の胎盤を形成している赤ちゃんを育てるのに必要なタンパク質はウイルス由来だそうです。

す。

また、石鹸を付けると感染をふせげるのは、ウイルスが脂質二重層という油で覆われた膜でできているからで、油だから石鹸やエタノールに弱いのです。手を洗うことの有効性がわかってきます。科学に近づくこと、基礎を知ることと対処する大きな力になると言われています。

日常の大切さに気づく

あたり前だと思ったものが大切であることに気づく機会になっていることもあります。

特に最近ではハレとケと分けて、気分のいいこと、都合の良いことだけを考えるようにして、気分を害すること、都合の悪いことを無視したりという傾向がテレビでも目立っていました。人生にはさまざまなことが起こっていくこと、これが正解だということはないかな。無いかを自覚して、考えながら生きることの大切さに気づかされる機会でもあったのです。

大切な人の死に立ち会えない

お葬式などの死者儀礼というのはよくできているのです。人間はあまりに大きな悲しみを一度に引き受けることができません。だから、お通夜やお骨上げ（還骨）などの「喪の作業」というプロセスを踏みながら少しずつ人の死を引き受けていく。ご遺体の手を握ったり、お骨を拾いながら故人のことを語り合う。どこかの民族・文化でも同じような仕組みで悲しみを少しずつ決着させていくのです。

今回のコロナでは、死に立ち会えない、遺族になりにくい、という悲しい問題が起こっています。きちんと医学的に裏付けられて、手を握ってもいいというだけでなく、遺族の心が違ってくると思います。科学で明らかにしてほしいものです。と、いったふうに綴られています。コロナの時代にどう付き合っていくのか、少しお役に立つご本かも知れません。

紅まどんな

ここ数年、友人やお世話になった方に、「紅まどんな」を送っています。

「こんなジュシーな柑橘類は初めて」、「こどもや孫たちが喜んで」など、楽しみにして下さる人がたくさん多くなっています。

坊主と本山で縁があった夕張のお寺の坊主さんは「ほんとうにおいしくて、思わず住職がふるさと納税をしました」とおっしゃっていました。

また、姪のこどもは「誕生日プレゼントはこれにして」と言ったそうで、また送ることになりそうです。

新型コロナウイルスの感染で暗い話題が多い中、心のなごむ話題があることはうれしいことです。

田中家の改宗

そんな「紅まどんな」を送った友人の一人（和歌山大学理学部の教授）から電話がありました。少し前にお父さんが亡くなられたハ

ガキが届いていました。お札を言われた後、お悔やみを申しますと、実はと言って話をしてくれました。

「実家はもとと臨済宗だったけれど、あまりお寺さんと触れ合う機会もなく、浄土真宗のお寺を紹介してもらってお葬式をした。父も生前から納得していて、ご住職の対応も分かりやすく、やさしくて、落ち着いていてよかったよ。」と言われびっくりしました。

でも、よく聞くと、奥さんの実家は浄土真宗の門徒さん、妹の嫁ぎ先（友人の同級生）も福井の浄土真宗の門徒さんで、違和感が無かったそうです。

私の大学の同級生は、仏教に対して寛容というか、むしろ好感をもった人が多く、寺の息子の私にも偏見なく接してくれたことを思い出しました。

理由はどうあれ、浄土真宗のみ教え、阿弥陀さまのお救いを、素直に受け入れてくれていることを喜ばせて頂きました。

森繁久弥さんの話

大谷大学教授の門脇健さんがこんな話をしてもらいました。

二〇〇九年、森繁久弥が亡くなられた時、息子さんが「父は浄土へまいりました」という発言にびっくりしたのでそうです。

いつの頃からか、テレビでその死が報じられるような有名な人みんな「天国」へ行くように言っていたからです。

そして、その理由のひとつを映画『警察日記』（一九五四年）を見て感じたそうです。映画で森繁久弥演ずる田舎の警察官のおおらかさ（いいかげんさもあるそうですが）が心地よかったです。お墓もその頃求められたそうです。

でも、門脇さんは知らなかったでしょうが、森繁久弥さんがお浄土、お念仏に親しまれたのは、映画監督の松林宗恵（浄土真宗本願寺派の僧侶でもあられる）さんと親しくしておられ

とによります。

今手元に原稿はありませんが、奥さんを亡くした時に寂しさを告白された森繁さんに、お念仏を勧められたのが松林監督でした。

ことあるごとに森繁さんは松林監督に心のよりどころを聞いておられたようで、監督に感謝されていた様子がいろいろなお話から伺い知れました。

息子さんもご門徒さんではないけれど、その姿をずっと見て来られたのだと思います。きっと、すばらしい出会いだったのでしょう。

親鸞探訪

私をご本山で組織教化部の仕事に従事していたころ、国府の恵信尼廟所が整備されることとなりました。紆余曲折もありましたが、完成し、ご法要の日も決まりました。

その時、是非泊ってほしいと声がかかったのが、赤倉観光ホテルでした。女性の社長さんが実家は昔から本願寺の門徒で、ホテルの

仏間で真宗の行事もよく行われていたので、喜ばしい日に利用してほしいのとこのでした。

私も仏教婦人会の担当の一人として行くことになっていたので、直前に他の仕事の関係で残念ながら行けませんでした。

当時は、小倉の百貨店の中に仏間があつてお念仏が受け継がれてきたり、有名なフグ料理の老舗旅館に仏間があつたり、高岡の料亭にも立派な仏壇があつて会合にも使われたり、とお念仏を喜び護つてこられた所が全国にありました。

柿崎の里（国府の浄善寺）

青木新門さんの記事です。（青木新門…富山県生まれ、早稲田大学中退後、葬儀会社で働いた経験を描いた『納棺夫日記』がベストセラーに。映画『おくりびと』の原点にもなった。）

法然、親鸞の流罪放免の命令が出たのは一二一年十一月である。親鸞放免を伝える勅使が越後の国府に

向かった。

そのころ親鸞も国府へ向かっていったが、柿崎の里を訪れた頃には前に進めないほどの積雪になっていた。

一軒の家を訪ね一夜の宿を請われたが、その家の夫婦にすげなく断られてしまふ。やむなく家の軒下で休んでいた親鸞が雪をかぶつてお念仏を称えていると、やがてふと眼を覚ました夫婦の耳に入る。

そのお念仏の声を聞いた夫婦は「あのような尊い方を外で寝かせるとはなんとあさましいことをしてしまつた。」と涙を流しながら絵親鸞聖人を家の中へ招き入れ、丁寧にもてなした。その時の親鸞が夫婦に送った歌が残されている。

『柿崎（かきざき）に 洪々宿をかりけるに 主の心 熟柿（じゅくし）なりけり』この家の屋号は扇屋といつた。一夜の宿の縁で、扇屋夫婦は現在の浄土真宗本願寺派浄善寺の開基となった。こうした親鸞との縁起を伝える寺は全国各地に多く

みられるが、私はこの古事が、柿崎という地名もさることながら、真実味を帯びて伝わってくる。

親鸞にとつても、流人として生涯過ごすことになるかも知れないと思われたこともあるだろう。それが放免の知らせを受けた日の出来事である。諦めないで精進していれば、いつかは機が熟す時が来る。この地方では柿が熟すことを、「**うれ**

一夜の宿を貸してくれたことより、宿の夫婦がお念仏を受け入れてくれた**うれしさ**が放免の**うれしさ**と重なって、「**熟柿なりけり**」という言葉にしみ出ているように思うのだった。



現在の浄善寺、パゴダ式の本堂